

平成20年度タウンミーティング(南大井)議事録

- 開催日時 平成20年7月17日(木)午後2時～4時
- 開催場所 南大井文化センターレクホール
- 開会 出席者10名(出席申込者10名)の出席をもってタウンミーティングに入る。

<あいさつ>

- 区側出席者: 区長・山田副区長・福田企画部長
- 司会(広報広聴課長)
それではこれからタウンミーティングを始めさせていただきたいと思います。

Part 1

Aさん

「すべての人にやさしいまちづくり推進計画」の中から、4点お話しします。

まず、民間企業にいた私からすれば、横のネットワークを作って、かつ、これを強力に推進していく総合プロデューサー的な専門の人間が要るのではないかというのが1点です。

2点目は、例えば、今日は南大井で行われていますが、この「やさしいまちづくり計画」を毎年こういう形で住民に計画報告し、区民にも意見を出すだけではなくて行動にも参加してもらう。そのような地域住民の関わり方が大事だと思います。

3番目が一番大事なのですが、今日コミュニティというものが様々に出てきましたが、中々でき上がらないので私は色々なことをやっており、その中に触れ合いの居場所づくりというものがあります。触れ合いの居場所は、子どもも高齢者も認知症の人も、全ての人が自由に週3・4日出入りでき、そこには仕切りがないということで自然に触れ合いができる、そういうものを全国的に実施しています。おじいちゃん、おばあちゃんにとっては、小さなお子さんというのは最大のボランティアなのです。それから、優しいおじいちゃんおばあちゃんに囲まれていれば、子供の中に優しさが生まれる。そういうものが大事。そうすると、お父さんお母さんは安心して仕事に行かれるということで、世代間交流もあるし、教育もできる。そして、これは防災防犯にもつながるのです。

それから4番目、区の職員は住んでいる地域の住民でもあるわけです。そういう意味で、住んでいる地域でPTAや自治会とかの役員に就かれて活動することが大事ではないかと思います。そういう家庭生活の中で経験したものを区政に反映させることが大事ではないかと思います。

Bさん

立会川には4つの商店街があり、私のいる商店街はアーケードも整備され、カラー舗装の立派な明るい所ですが、いま一つ、ぱっとしません。品川区は東京湾に面し、船の科学館、海上公園、立会川の勝島運河、大井競馬場が品川区のベイサイドのリゾート地になればと思っています。

そこで、1つ目の質問ですが、商店街のイメージアップを図るために、町会、商店街、地域と一緒に立会川運河の花畑事業を展開しています。6年目を迎え、桜の植樹もされ、地元の自慢できる場所になりつつあります。地域、民間主体のこの事業、今後も品川区の管理地の借用容認と、花の種、備品等の助成を継続的にお願いしたいと思います。それに、運河の花畑の雨水タンクの増設を会員の方から切望されております。この雨水管の増設をご検討いただけないのでしょうか。

2番目に立会川、川の問題です。先ほども区長も言われましたように、水質浄化、先月、品川区連合協会立会川「うるおいプロジェクト」での立会川水質浄化を含めた環境美化運動が行われました。本年度から本格的な浄化事業を行える高濃度酸素溶解水とはどんな効果があるのかの説明と大雨による立会川の氾濫についても、今後、対策があればご説明いただきたいと思います。

3番目に、立会川運河にある浜川ポンプ場が数年後にはなくなると聞いていますが、その跡地の利用は決定しているのでしょうか。この場所は、江戸時代、土佐藩がペリー艦隊を迎え撃つために浜川

砲台を作ったところです。あの坂本龍馬もこの地で黒船を見て衝撃を受け、その後の活躍の原点となったとNHKで放送されました。この跡地に、歴史記念館などを含めた地域の多目的コミュニティ施設を視野に入れて検討していただければ幸いです。

Cさん

私は、品川法人会に所属しており、その中の青年部で、今、色々な活動をし、また、企画をしています。そういった地域社会貢献活動に一生懸命取り組む中で、区長にも来賓としてお見えになっていた「ふれあい寄席」に高齢者クラブや身障者団体をボランティアで招待をして、予算も全て我々でやっているという活動があります。その他、「大森夢フェア」で子供たちに命の大切さを知ってもらおうということで移動動物園に我々の予算の範囲内で招待しているのですが、我々の思いというのが合っているのか、ニーズがあるのかないのかを情報提供していただきたいのです。例えば地域的に、八潮地域だけで社会貢献をしても他の地域の方に提供できなかつたり、あとは年齢層の問題もあって、若い子供たちに向けて行ったほうがいいのか、高齢者にも同じようにやっていったほうがいいのかとか、その辺の考える指針を例えば行政から「こういう意見がありますよ」とか「この辺は少し薄いので、こういう地域貢献をしていただけないか」と要望をいただくことはできるのかなと。

要は、我々も本当に手さぐりで地域貢献や社会貢献をやっていますので、何らかの指針が欲しいと思うのです。ですから、例えばその1つの中でメールマガジンを発信していただくとか、それこそ個人だけではなくて区に所在する会社の総務担当とかにも発信していただくと行政と地域経済が一緒になって何か1つの方向性で活性化していけないのかなという素朴な疑問がありますが、連携に対しての形として何か示していただければ、ありがたいと思います。

区長の回答

区長

<区民参加、総合プロデューサーづくり、居場所づくりについて>

最初にご質問いただきました内容について。区民が発言して、そして発言だけではなくて行動をとるべきだということは、本当に私もそう感じます。かつて1960年代には「住民はとにかく要望するんだ。それを受けて行政がやるのだ」という区分けだったと思いますが、今は区民の方も発言し考えを述べていただいて、そして、それを一緒になって行動するという時代になってきたのだと感じますし、もう既に、色々な方が行動に移していただいているという感じを持っています。

それから、縦割りを横に結びつける総合プロデューサー的なものが必要なのではないかとおっしゃったのですが、本当に強く感じるのは特に国が「省益あって国益なし」と言うように、省と省がお互いに何の連絡もなく、そのまま自治体に仕事を下ろしてくるということがあります。ですから、何とか計画を作りなさい、何々省でも作りなさい、と。だから、自治体はいろいろな計画を持っていて、しかし、それでは1つのまとまった組織体をなしませんので、結局、我々で言えば経営会議というものを開きまして、夫々の計画を1つにまとめた長期基本計画というものを作り、そこで総合的に実施していくということになります。したがって国には、国の経営会議というのは、本当は閣議がそうだと思うのですが、あれは形式的だと言われています。区の場合は規模が小さいですから、実質的な意味でも、経営会議ということで横のたがをはめてやっています。そういう意味では、私が、そのたがをはめる役、総合的にまとめる役だと思っています。

田舎で、例えば大きな家の縁側に、その家のお年寄りだとか隣の家の子供だとかが集まって遊んだり話したりなんかするような光景がありますし、そういったものが品川区においてもあるといいなど。今の直前の話と矛盾するかもしれませんが、やはり縦割りの部分があって、例えば荏原とか西大井に「ほっと・サロン」というものがあります。ところが、これは高齢者部門が作ったものですから、お年寄り中心なのです。それから、児童センターとかを母体とする色々な集まりがあって、やはりそれはお子さん中心のものとなっている。前後の年代が集まって1つの居場所になるというのが、まだまだ少ないと思いますので、「おばちゃんち」が比較的充実してきましたから、そういったものも少しずつ増やしていきたいなと思っています。

それから、おっしゃるとおりで、職員は生活に根ざした経験を生かして、色々なところで活躍していくべきだと思っていますので、いわゆる職員の自己啓発の中でも、そういうふうに進めていきたいと思えます。

<立会川の浄化・雨水タンクの増設・浜川ポンプ跡地利用について>

立会川のことですが、今年の春には近くに桜も植樹され良いところになりつつあります。本当に地域の人達がこの場所を愛しているのだということをつくづく感じます。

例の高濃度酸素溶解水についてですが、立会川は海水と真水が行ったり来たりしている所で混ざり合わないのです。比重や重さが違いますから、海水は下へ潜り込んでしまう。それで、その下へ潜り込んだ海水が上と混ざらないで、そのまま今度は酸素がどんどん少なくなって、そこに臭気を発するような菌が発生するということです。ですから、下流の海に近い所の下の部分、海水を取って、そこに酸素を注入して、上流へ持って行って、上流の下の方から、もう一回、戻してやるというやり方で酸素溶解水を入れています。

この間やった時に、泡がぼこぼこって出て「おお、来ている。来ている」と言うのですが、泡が出るのは、実はあまりうまくいっていないのです。下へそっと入れてやらなくちゃいけないですから、泡が出るのは、そこではあまりうまくいっていないので、そっととってそっと戻す、その間に酸素をきっちり補給するのがいいやり方だと言われているので、なるべくそういうふうにやっていきたいと思えます。

それから、雨水タンクですけれども、今、区民センターに1つありまして、これをもう1つふやすというのはなかなか難しいので、雨水タンクの2分の1は区が助成するというので、そういう制度がありますので、その制度を活用してお使いいただけませんか。

それから、立会川を根本的に変えていくには、今、工事中ですが、第二立会川幹線の完成を待つしかないと思えます。合流式の下水道ですから、雨が降ると下水と汚水とが全部混ざって出てくるので、匂いも非常にします。これを分けて流すということでは第二立会川幹線の完成を心待ちにしているわけですが、その時には浜川ポンプ場はなくなり、勝島のポンプに引き継がれることとなります。

ただ、今おっしゃったように、じゃあ、浜川ポンプ場の跡をコミュニティ施設や記念施設みたいなものにするというのは、これは東京都との話し合いになりますが、私は少し難しいのかなと思っています。というのは、川と海との接点というのは、水にとっては非常に重要な場所ですよね。例えば高潮対策だとか護岸の要になるところですので、東京都がどのように使うかまだ決めていないと思えますが、地元のそういう声があるということはお伝えしていこうと思えますが、私どもの段階でお約束することは難しいし、水の関係のことで使う必要があるのではないかなという、そんな感じは持っています。もちろん、地元のそういう要望が実現されるように努力はしていきたいと思えます。

それから、花の種は、引き続き今までどおり協力させていただきますので、よろしく願います。

<ボランティア活動への助言、企業の社会貢献について>

それからボランティアの関係で、今、品川区では「区民と区との協働を進める懇話会」というものを作りました。これは、地域の方々と協働していただけるとすると、どんな協働をしていただけるのだろうかという、今まさにおっしゃったようなことを話し合う場です。これを立ち上げて、今、ホームページで色々発信をしていますので、お帰りになりましたら、ぜひ品川区のホームページをご覧くださいと思います。その中で、今、色々な協働のあり方を模索しているところですし、これからもまた話し合いをしていきます。ぜひ注目していただきたいと思えます。

それから、企業の貢献ということですが、これも私どもは非常に重要なことだと思えます。企業をこれからお訪ねして、今、既にこんなことを品川区内の企業さんからやっていただいているものがありますという事例をお示して、「御社では、区とあるいは区民のために協働で何かしていただけるようなものはありませんでしょうか」とお話しさせていただきたいということで、これから個別訪問に伺おうと思えますので、ご発言の方の会社に参りましたら、よろしく願いたいと思えます。

Part 2

Dさん

家族7人3世代子供4人で住んでいます。今日は急遽、保育を用意していただき、今、子供達の声が10名弱ほど聞こえ、この会場には100名位の参加者がいると思いますが、この会場はちょうど区の人口の縮図だなと感じています。

「子育て支援」という言葉が定着してきたのはここ10年位でまだ新しい言葉だと思いますが、どうも「子育て支援」と言うと、お母さん達が支援を受けているばかりの印象ですが、実は私、昨年、仲間20人程の全員子供を持ったお母さん達で「子育てメッセ」というイベントを去年の3月にしましたところ、3,500人程の親子さんに来ていただきました。子供を持ったお母さんたち、そして、子供を持っていなくても、いつも支援されるばかりではなくて、何か自分達もできるのではないかという可能性を持っていると思います。また、最初の方のご質問のように、世代間で、共助とか、お母さん同士とか年齢が上の方同士の自助みたいなことで解決できることもあると私は信じています。

そういうことにおいて、特に子育て支援ということで質問ですが、区で、先程お話があったように、基本構想でも「協働」という言葉が挙げられています。私達が何か自助、共助していく中で、区は特に子育て支援の分野で、特に今必要としているものや「こうしてもらいたい」ということ、今「子育て・子育て・親育ち」というものを今年度から児童センターなどで行ってはいますが、私も「親育ち」ということで、まだ親になったばかりで、まだまだ先輩方に教えてもらいたい部分とか、私達が色々していただいた中で「親育ち」ということを今度、地域にお世話になったことで還元していきたいとも考えています。そのようなところで、「協働」というのをどういうふうにする中で、私たちがこれから芽生えさせて育てていけばいいかというお考えを聞かせてください。

Eさん

私は、夫とその知人達でフットサルを週1回やっていて、その関係で社会教育団体ということで八潮スポレクに参加させてもらい、八潮学園小学校の体育館をお借りしています。

民間でコート借りると1時間1~2万円し毎週やるにはお金がかかることを、八潮スポレクの子社会教育団体に入ると2時間1,000円位でさせてもらっているの、とてもありがたく利用しています。

ただ、私の周りでは、サッカーをやるには1チーム11人必要ですが、フットサルはミニサッカーなのでチーム5人でいいのです。だから、「フットサルだと、コートもサッカーより要らないし、室内でもできるし、やってみたい」という方がいらっしゃいますが、活動場所が高くてなかなかないという感じなので、区の小学校にあたりしているのですが、足で蹴る競技なので、施設がボロボロになってしまうという意味で、区に聞いたら「なかなかそういう学校がない」と言われましたが、八潮だと「いいよ」と言ってくださっているのを利用しています。

八潮は調整会議というのが行われますが、今年から小中一貫校ができて、フットサルができる学校は5校中3校しかないのですが、皆さん週を減らしたりなどして、どうにか調整している状況です。

今後、八潮に地域型スポーツ施設が立ち上がっていきますが、私達は少子高齢化に向けて、高齢者でも簡単かつ長くできるスポーツを目指して、スポーツ吹き矢、ラージ卓球、ダーツなど、そういうスポーツの普及を目指し、今後、八潮がもっと活気づいていく街になっていけばと思っています。それに向けて、引き続き行政の支援が得られればと思っていますので、よろしくお願ひします。

Fさん

まずは、隣の部屋で今日子供2人を託児で見ていただいて、このような場所で発言できることをとても感謝しています。どうもありがとうございます。

私は、今、大井倉田児童センターでママのための子連れフラダンスサークルを運営しています。区からも「若葉マーク講習」で補助をいただき、児童センターの職員の方からもご親切に対応していただいて、非常に活気に満ちたサークルとなっています。

私事ですが、今、4歳と2歳の男の子がいて、また私自身が今、4カ月の妊婦で、3人子供を連れて楽しくサークルをやっていますが、何かの資料が必要になった時にコピーをとる際にコンビニに

行くのも、3人の子供の手を繋いで連れて行くのは非常に厳しいという現実がありまして、児童センターのコピー機で、もちろん有料で構わないのでコピーをとらせていただくと、私のサークルも他の親子のサークルも助かるのではないかなと思い、提案させていただきました。

Gさん

私は妊娠7カ月ですが、高齢者の方にも共通することだと思う、住みやすく安心できるまちづくりについて、2、3、お願いがあります。まず、電車に乗ると、数の少ない優先席を皆で譲り合うとか順番を待ち合うというのが現状です。これからは高齢者の方も増えてきますので、特に妊娠初期などでおなかが出ていなくても悪阻がひどくて、一番席に座りたい時期です。ただ、「妊娠をしています」という小さいマタニティマークのタグだけだと、なかなか一般の方達も認識が薄いというか、男性は全く知らない方も多いと思います。ですので、こういったものがあって、妊婦さんなどには席を譲っていただけるようにと皆さんに広報などでアピールしていただき、認識を高めていただけるようにしていただくと嬉しいです。

あとは、まちのハード面のことですが、まず交通ですが、立会川の国道を渡るところに、30メートル幅ぐらいで2本歩道があります。この青信号は同じタイミングで青信号になりますが、国道を走っている車は、黄色信号でその2本を渡り切ろうとして、アクセルを逆に踏みます。すると、2本目の歩道が緑になったものを歩こうとする人の目の前をハイスピードの車が走っていくという、それで、一度、跳ね飛ばされた人を私は見えています。

橋の欄干のところ、ベビーカーなどで歩く時には非常に狭くて歩きづらくなっています。自転車が横を通ったりすると、殆ど押しませんで、欄干の歩道を少し広げていただけるようなまちづくりをしていただければと思います。あと、駅のエレベーターなどもつけていただけると助かります。

立会川には、なかなかユニバーサルデザインというものがないので、もっと積極的に取り入れていただいて、暮らしやすいまちづくりをお願いいたします。

区長の回答

区長

<子育てにおける区と区民との協働について、自助・共助・公助について>

「子育てメッセ」の熱気といいますか、私は当日には行かれなかったのですが、CATVですずっと流しているのを拝見し「うわっ、すごいパワーだな」と感じました。このパワーが、本当にお互いがお互いを支え合うようなパワーになっているということを素晴らしいなと思いました。ですから、この「子育てメッセ」は是非続けていただきたいし、続けることについて区としてどんなことができるだろうかと。

やはり大きいのは場の提供とか共催という形で一緒にやることができたらお互いにとっていいのではないかなと。ですが「役所が入り込むとうるさいことばかり言うのではないか」と思われるかもしれません。そういうこともあるかもしれませんが、自発的にやっておられる方と一緒に活動することは大事で、そういうふう考えていきたいと思っています。この「SKIP」のチラシは、今、区役所で母子健康手帳の交付の際に、妊婦健診受診票や様々なパンフレットやちらしなどの情報が入った母と子の保健バッグをお渡ししているのですが、その中にも入れています。少しでも多くの人にそういう取り組みを知っていただくということについて努力していきたいと思っています。いずれにしろ、すばらしいパワーですので、区も一緒になって盛り上げていきたいと思っています。

それから去年のタウンミーティングで「すまいるスクールを1時間延長してくれないか」という質問があったのです。今「すまいるスクール」は運営に年間12億円位かかっています。これを1時間延ばすと、さらに数億円の予算がかかるので、これは無理です、とお答えしました。そして、「いずれお子さんは1人でお母さんの帰りを待つことになりますから、それを入学という1つの機会を契機に始めてみてください」とお答えしました。すると「では、送り迎え、特に帰りを区で、例えばバスを借り上げるか何かして送ってくれないか」という質問が出ました。それに対して私がお答えしたのは「例えばサッカーや少年野球に行く時は『今週は　　さん家。来週は　　さん家ね』と車を出して、そこへ子供を乗せて会場へ行かれると思います。そういうふうに参加者同士が当番を組んでお互いに助け合って送り迎えをし

ていただけませんか。そのためのお手伝いだったら区はやりたいと思います」と申し上げました。何でも行政に「これが必要だからこれをやって」となると、結局それを賄うのは税金なのです。税金を払っている人から見れば「そういうところに使われるのだったら違うところに使ってくれ」という声も出てきます。できるだけ自分達のことは自分達の手で、これは「自助」ということで、それから、お互いで助け合うことを「共助」といいますが、自助・共助、そして、どうしても例えば体がご不自由という方に対しては「公助」、公がお手伝いをする、公がサービスを提供するという、そういう仕分けがこれから必要ではないかと考えておりました(拍手)、Dさんが中心になってやっておられるこういう活動がもっともっと広がってくれと、社会全体の活力にも繋がるのではないかと感じています。

<フットサルの施設について、高齢者でも取り組めるスポーツについて>

それから、フットサルを始めとするいろいろなスポーツのことですけれども、確かにフットサルは今すごいですね。私の住んでいる大崎にもフットサルができる所があって夜までやっています。やっぱり手軽にできるということが一番、人数も少ないし、そんなに難しいルールがあるわけではないということで、やりやすいのではないかと思いますのですが、やはり競技の特徴上「蹴る」ので、それに耐えられる施設を増やしていくのは、なかなか難しい。ただ、これが今、人気のあるスポーツだということは生涯学習課でも頭に入っていますので、同じ色々なものに使われるのであったらフットサルにも使えるようにという工夫をしていきたいと思っています。何分にも激しいスポーツですので、そこは少し難しいところがあるかもしれません。

それから、高齢者の方々も参加できるようなスポーツをじわじわ広げていくことで、介護予防の効果も高まり、介護の問題も良い方向に持っていけるのではないかと思いますので、区としてもスポーツの普及には力を入れていきたいと思っています。

<児童センターのコピー機を有料でもいいので使いたい>

それから、児童センターのコピー機を有料でもいいから使いたい話については、利用者の方も使えるように、早速取り組んでいきたいと思っています(拍手)。明日からというわけにはいきませんが、少し時間をください。折角、コピー機があっても職員だけが使っているのは勿体ないので、少し難しいのは、カウンターをつけて、職員は仕事だから料金がかからないように使うようにする、その仕分けをするものをつけるのが、なかなか手間がかかるような気がします。少し時間をください。

<全ての人に優しいまちづくり>

それからご懐妊されている方からのご意見をいただきました。妊娠7カ月ということでお大事にしてください、品川の次世代を育てていただきたいと思っています。昨今、妊娠されていたり、お年寄り、体の不自由な方が優先席の前に立っても、替わってくれないのですよね、寝たふりをしてしまったり。なかなか世知辛さを感じますが、しかし、さっき申しましたとおり、マタニティマークがありまして、これは区報でも「こういうマークはこういう趣旨ですよ、特に妊娠月の浅い人は体調が辛いことがあって目立たないかもしれませんが思いやってくださいね」ということは記事として載せてきています。しかし、あまり見てくれないというのも実情ではないかと思います。

それからもう一つ、品川区では、席譲り運動のバッジというのがあって、これは区内の中学生の新聞への投書がきっかけになってできました。どういう投書かという、席を譲りたいと思ったけれど譲れなかった、そういう自分が何とも恥ずかしいという内容で、だったら何かこういう席を譲ってくださいマークとか、席を譲りますマークみたいなものを身につけていけば、そういうことが声をかけやすいのではないとか、そんなことで席譲り運動というのが始まっています。これはもう純粋に民間から始まった運動ですが、こういうのも区として一生懸命PRして広がっていくようにしたいと思っています。

それからご指摘の2つの横断歩道は、2つの交差点が隣接しているということではなくて、あれ全体が1つの交差点という考え方のようなのです。だから、一緒に青信号になったり同時に赤信号になったりする。だから、こちらから走って行って手前の信号が黄色になったから、もう向こうの信号は歩行者用の横断歩道用が青になっているということになる。その幅がものすごい、かなり大きな交差点というふうになっていると思います。これについては大井警察にお話をし、何とか解決してもらえませんかということで依頼をしました。ただ、技術的に非常に難しいそうです。あれ全体が1つの交差点で同時期にぱっと赤くなるというのは、少し運転手にとっても意外なことだと思われ、えっと思うだろうと思われ、

歩行者にとってもやはり危ないことですので、その辺は大井警察のほうにしっかりと伝えていきたいと思っています。

それからバリアフリーについては、一生懸命努力して京浜急行では立会川駅は今工事しており、11人乗りのエレベーターを3つ、来年の3月に作る予定です。それから大森海岸もここは2つのようですが、11人乗りのエレベーターを2機、京浜急行のほうで、今工事をやっています。

Part 3

Hさん

普段は子育て支援の活動を色々しておりますが、今日は不安定な親ということで発言させていただきました。思春期の子どもを持つ親の相談先に関してということです。かつては思春期というと中学生というイメージがありました。今、思春期の講座などで色々勉強させていただくと、最近は10歳位から小学校中学年位が思春期前期ということで、行動や言動が色々変わっています。反抗期ということもあり、親が不安に思うことがとても増えてきています。

我が家にも10歳の4年生がいますが、なかなか一筋縄ではいかないことが増えてきて、学校の保護者会などでも、何だか子供が大分変わってきたわ、という話が随分出てきています。ただ、それをどうしてよいかわからないという保護者が本当に多くて、今は学校のカウンセラーに相談するという方法もあり、我が校では先生を通してお願いする形になってはいますが、子ども達の生活に密着した所ですので、少しハードルが高いようなところがあります。

そこで、1つ目は児童センターで今相談業務をしていただいています。そのPRを是非お願いしたい。チャイルドステーションなどでの相談業務は、私は利用したりするのですが、やはり、どうしても乳幼児対象というイメージが強いものですから、その辺がなかなか知られていないように思います。幾つかの児童センターで聞いてみたのですが、相談員の方は非常に幅広い知識をお持ちで、中高生の相談にも十分対応できる。その親に対しても十分お答えできますということをしていただき、とても心強かったのですが、その辺は是非PRしていただいて、できれば場所ももう少し増えると嬉しいなと思います。

2つ目は、思春期講座というのがとても役に立つのですが、年に1回か2回、5カ所の文化センターで順番に回るので、気になって行きたいなと思っても、なかなか行けないうちに終わってしまっていることが多いと聞いています。以前ですと、思春期なんて誰にでも来るのよと、親の方もドンと構えていましたが、先程も話に出てきた核家族という昨今では、非常に悩んでしまい、親もオロオロしていると、もっとひどくなってしまうところがあります。

やはり気軽に相談できる相手がいないという意味では、小学生の親も少し孤立の傾向があるのではないかと思います。私も品川区に40年以上住んでいますが、この土地に住み続けたいという気持ちは、小・中学校の頃に良い過ごし方ができると出てくるような気がしています。今、区外に住んでいた友達も戻ってきているのですが、やはり住みやすいという気持ちがあるからだと思うのです。

それと、品川区のホームページの話ですが、やはりどうしても生涯学習課とか教育委員会で講座を受講したい時にはどこのページを見ればいいのか、少しわかりづらいので、講座の一覧みたいなのが最初のトップページにあるといいと、検索でなかなか思ったページが出てこない現状が、大分解消されているように思いますが、その辺の精度が上がると嬉しいです。

最後に、昨日、胃がん検診を受けさせていただき、少し胃が気になったもので内科に行ってお医者さんを紹介していただいた時に、予約表が「胃がん検診」ということで、それをもらってからやはり検査を受ける1週間が非常にドキドキして不安で、もしこれが胃の検診という名称でよければ、そうなるといいなと思いました。後期高齢者という問題でいろいろあったと思うのですが、言い方1つでほんとうに不安になるというのを体験したものですから、その辺もお願いできたらと思います。

Iさん

大崎駅すぐ近くに住んでいます。大崎駅の北側でこの程シンクパークビルができた。日中はビルに一人が居ると聞いています。昨年防災の日、ゲートシティで日中避難訓練をしていて次から次

に人が出てくるのを見かけて、災害が起こったらどんどん人が出てきて自分達はどのようになるのか不安に思いました。いざという時はどうなるのか、私のところは芳水小学校が避難場所だが入れるのかと思いました。よろしくお願いします。

Jさん

品川区の財政状況についてお聞きしたかったのですが、先程の区長のプレゼンで区の平成20年度予算が一般会計として約1,376億円ということを知り、財政の立て直しの目的は終わっているかなと思いました。

私のメインの質問は教育問題で17年位前の話ですが体罰事件がありました。区側は裁判で勝利を勝ち取りました。そのことの事実について、先日、区長に事実を確認してほしいというお願いを出したら、そういう事実ではありませんという返事があってきたわけです。それで、区長にお会いし、今こういふようなことが出ているのだけど、本当に調査をやっているのか。とりあえずその辺のところを聞きたいと思うのです。それから、最初の段階で情報公開をしっかりとやっていけば、この17年のブランクということはないと思うわけです。子供が17年間もずっと苦しんでいるわけです。ですから、そういうようなところで、今、学校が問題になっていますが、次は品川区の問題について、私は今、一生懸命、その仕掛けを作っています。

区長の回答

区長

<思春期の子どもとその親の相談先と品川区ホームページと区の検診>

昔は中学生位が思春期と言われていましたが、今は発育が早くなっているようです。小学校高学年位から思春期に入ることが多くなっているようです。先程も申しましたが核家族の中で子育てをしていくということは、色々な意味で負担になっている。小さい時の負担というのは言ってみれば「手間」だと思ふのです。何々しなくてはいけないという手間。それは保育行政とかで支援をすることができますが、子供が育ってくると手間ではなくて、今度は「心配」だと思ふのです。この子はどういうふうになるのだろうかとか、何を考えているのかとか、大丈夫なのかというそういう「心配」が重圧になってくると思ふます。

その時に、例えばおばあちゃんがいれば、あんなだっただけでそうだったのよと一言で解決することが、初めて経験するわけですから不安にもなるでしょうし、だから、そういう時にはやはり区のやっている講座とか、色々な人の集まりの中へ出て行って、この人もそういうことで悩んでいるのかとかこの子もそういう状態なのかということ、よく隣を知るということも大事だし、それから専門的に講座を受けて思春期の中身を知ることも大事だと思ふので、そういう意味で、おっしゃられたような行政が支援しなければいけない場面は結構あると思ふます。でも、役所というのはPRが下手くそなのです。

民間ならばパッとわかるような感じのPRをしますが、行政は比較的控え目でおとなしいPRなので、例えば、「え、そんなことまで児童センターでやっているの?」というのが正直な反応ですよ。昔は、児童センターといったら小学生の放課後対策みたいなものだったですから。平成元年位から中高生も対象にする施設に変わってきて、今は例えば児童相談所の入り口という感じの仕事までやっていることを、実はあまり皆さん知られてない。ですから、このことはこれからPRしなければならぬなど。だから、いわゆる子育ての、小さい時の手間をお助けするのは保育園、大きくなっての心配事を支えるのは児童センターという、そういう仕分けでPRしていきたいと思ふます。

それから文化センターでやっている講座ですが、おっしゃるとおり、そうです。今年は旗の台でやります。来年は南大井でやりますとなると、逃してしまうと5年間めぐってこない…、その頃にはもう思春期が終わっているという、そういうことになってしまうわけで、やっぱりタイムリーに受けてもらうためにはもう少し増やしたほうがいいのかという感じがしています。それと大事なことは、そういう講座を聞くのと同様にさっき申し上げたように他の子を知ること。他のご家庭を知ることとは大事なことです。私のところもそうでしたが、小さい時の話ですが言葉がなかなか出ない。うちの子は大丈夫なのだろうかとも悩んでしまう。だけど、よその子を見てくれば、何だ、この子だっただけでそうではないかとい

うことで、もう一安心してしまうわけです。ですから、思春期の子供を持つ親同士のサークル。これは例えば、大井保健相談所の中でそういうのが少しありますが、そういう家族同士の繋がりみたいなものの中に入っていかれる。これは非常に心配だというケースについては、そういう方法もあるのではないかと思いますので、これもやはり知られてないようですから、PRをしていきたいと思います。

ホームページでなかなか検索しにくいというのは二通りありまして、ホームページのつくりよう方の問題と講座の開催の仕方が、色々なところで同じようなのをやっていて、相手が少しずつ違うみたいなの。そうするとお年寄りのところから入っていくとお年寄りの講座は出てくるけれども、そうではない講座は出てこない。だから、大体講座ってやると生涯学習ものあたりがヒットしてきて、産業振興課でやっているものはヒットしてこないとあって、色々なところで色々な講座をやっているものですから、そういうやり方にも1つ問題があるのかな。これは両方改善していくことで、区民にとってわかりやすい講座の一覧というのができるのかなと思っています。少しずつ努力していますので、少しお時間ください。

それから先程の検診の名前。胃がん検診というと、胃がんですと言われていたりと思われる方もいらっしゃる表現だと思います。言葉のやり取りも含め、指導をしてみたいと思います。

<大崎駅周辺の避難所について>

大崎のことです。おっしゃったように、今、シンクパークがすごいですね。この間、シンクパークに入っている明電舎の社長さんとお話する機会がありました。ご心配になるのは当然ですが、その社長さんが心配しているのは昼食難民のことなのです。あのビルだけで7,000人が働いていると言っておられました。その人達が12時から1時間で食事をするのは、周辺の食事の施設や弁当の業者を入れてもとても無理だと。それをどうやって解決していくかというのが意外と企業活動にも支障が出てくるのだそうです。つまり、昼にお弁当を食べ終わってないわけですから会議を招集しても、全員が集まれないとか、そういうことになりかねないので、これは企業としても大きな問題だと言っていました。

話は戻りまして、芳水小学校には企業にお勤めの方は入らない、これが原則です。どうしても、何かの事情でということになれば別ですが、品川区の避難所である学校は品川区民が避難するところということで、企業に対して実は「進めよう、事業所の地震対策」という、こういうものを今作っています。表側が防災地図、裏面が企業として普段からやっていただかなければならないことが書いてあります。そしてそのことに対して、区がどういう協力ができるかということを表したこういうものを企業に配ってまして、例えば帰宅困難者をどうやって帰るようにさせるか。あるいは会社は会社でもって、備蓄品をどの程度、どうやって用意してもらうかということで、企業も1つの社会的責任を果たしていただくということで、働きかけをしています。

そして実際に区民と事業所と区で三者連絡会を作りまして、日常、事があったらどうしようかということで、この地域で一度、帰宅困難者の歩く訓練をしたこともありますし、あるいはTOCなどは地区の防災訓練にも参加してもらっています。ですから、防災ということがあった時は企業としての責任を果たすためにどうしたらいいかというのを、企業でもしっかり考えてもらうというやり方をしていますので、あんなにいっぱい人がいてというご不安は、私も傍に住んでおりますから、お感じになるのは無理もないことだと思いますが、区もそういう努力をしているということでご理解ください。

<区の教育の問題について>

それから、体罰のことですが、先程もご自身がおっしゃっていましたように、これはもう17年も前に起きたトラブルの1つであります。このことについては平成6年に裁判になり、9年には裁判は終結しておりますし、また、ご質問の方ご自身が起こした情報公開についての裁判も平成7年に起訴をされて8年に第一審の判決が出て、そして控訴されて二審でも控訴棄却、そして平成9年、最高裁での上告棄却となっている。いずれにしても、既に結論の出たことだと認識しています。

昨年の12月に請願という形で文書が出ましたが、これについても翌年1月にご返事を申し上げましたとおりでございますので、この場で改めて、このことについて議論することはないと思っています。

全体の総括

区長

今日は、どうも本当にありがとうございました。どこの場面で申し上げようかと思っていたのですが、最後に申し上げたいのですが、ある地区のタウンミーティングで防災の話が色々出まして、防災はどうなっているのだ、地域の防災の担い手は誰なのだとか、自分にはそういうことが少しも見えてこないというお話が大分出ました。その時にそれは町会ですよということを申し上げました。

いろいろな歴史的な経過を見ても、そして地域とのつながりを見ても、やはり町会、自治会というのが、地域での一番の協働の相手でもありますし、自治組織だと思います。そして一旦ことがあって、例えば学校の避難所に地域の住民の方々が避難をしました。さて、そこのお世話を誰がしますか、区役所の職員が全ての学校を回って、避難された方々のお世話をするのは到底無理です。そうするとどうということになるかということ、町会の方々やサポートする方々が実際の避難生活のご支援をしてくださる。そういう関係にあると思います。ですので、地域のことで見えないな、わからないな、どうなっているのかということを感じましたら、もちろん役所にお尋ねいただいてもお答えはできますが、まずは身近な町会、自治会にお話をあるいは相談をされるということが一番地域、地域に合った答えが返ってくる。そういうものだと思います。そういう意味で、これから一番地域にぴったり合った活動をしている町会というのを皆さん方が注目していただいて、活動していただくということをぜひお願いをしたいと思います。

区では、今年の予算で町会の、様々な活動の紹介や町会のPR活動というところについても、ご支援をしていきたいということで、予算を組んだところですので、ぜひ区民の皆さんが町会に注目していただきたいなことだけお願いをして、ごあいさつにかえさせていただきたいと思います。どうも本日はありがとうございました。

● 閉会

以上により全ての質疑応答等を終了し、午後4時に閉会した。

以上